平成 29 年度 全国学力・学習状況調査 根戸小学校の結果より

<教科に関する調査結果より>

総合的にみて、本校の結果は「知識」・「活用」どの観点も全国平均を大きく上回っている。

問題A：主に「知識」に関する問題 問題B：主に「活用」に関する問題

【国語】

問題A：「知識」について

- ・全ての項目で全国・県平均を上回っている。特に、「読むこと」の項目は大きく上回っており、目的に応じて資料から必要な情報を見つけて読むことができている。また、「書くこと」の項目において、お礼の気持ちを伝えるための手紙の内容として適切なものを選択することはできるが、手紙の構成についての理解がやや弱い。

問題B：「活用」について

- ・全ての項目で全国・県平均を上回っている。特に、「話すこと・聞くこと」の項目は大きく上回っており、スピーチをする際の目的や意図に応じた適格な言葉遣いを選択することができている。

【算数】

問題A：「知識」について

- ・全ての項目で全国・県平均を上回っている。特に、「量と測定」の項目は大きく上回っており、示された平行四辺形や三角形の面積を正しく選ぶことができている。

問題B：「活用」について

- ・全ての項目で全国・県平均を大きく上回っている。しかし、直線とその間の数の関係に着目して示された方法を問題場面に適用することや、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述することなどにおいては、まだ伸びしろがあると考えられる。

<児童に対する質問紙調査結果より>

本校では、体育科の研究やNAP活動等を通して児童の「人間関係」を構築することや「自己有用感・自己有能感」を高めることを目指している。また、今年度は「恕」と「Challenge」の2つの心を児童に大切にさせたいという経営方針のもと、日々の指導にあたっている。これらに当てはまる主な項目についての本校の状況は、以下のとおりである。

「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」と答えた割合

- (4) ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことはありますか。(Challenge) → 97. 3%
- (5) 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。(Challenge) → 74. 8%
- (6) 自分にはよいところがあると思いますか。(自己有用感・自己有能感) → 80. 2%
- (7) 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。(自己有用感・自己有能感, Challenge) → 54. 5%
- (10) 将来の夢や、目標を持っていますか。(Challenge) → 78. 8%
- (34) 学校で、友達と会うのは楽しいと思いますか。(人間関係) → 98. 2%
- (36) 学級会などの話合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見の良さを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか。(人間関係, 恕) → 47. 3%
- (37) 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。(人間関係) → 88. 8%
- (38) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。(自己有用感・自己有能感) → 91. 4%

数値からも、全体的に描いている児童像に近い姿になっているようだ。よい人間関係の中で、協力して学習に取り組んだり、日々の生活を過ごしたりしていることがわかる。これまでの体育や算数を中心に学び合う活動（アクティブラーニング）や、毎年度の学級編成、高学年における少人数指導などの取り組み等の成果が発揮されているのであろう。

しかし、(7)や(36)の質問に対する結果を見ると、人前で意見を言うことや、他の意見を取り入れて自分の考えを主張していくことには、苦手意識があるようだ。

これは4月に6年生のみを対象に行った調査の結果であるが、今年度より取り入れた、NAP（Nedo Adventure Program）や「Challenge」という合言葉を用いた声かけにより、成果が徐々に出てきているような手応えを感じている。